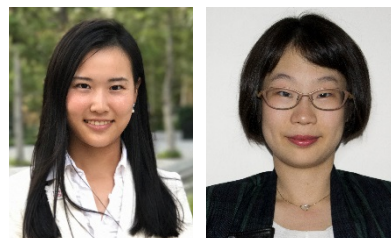


2018年 ストックホルム国際青年科学セミナー参加学生 決定
慶応義塾大学 伊津野 舞佳 さん
東京工業大学 土山 絢子 さん
ノーベル賞授賞式や関連行事に出席

公益財団法人国際科学技術財団(理事長 小宮山 宏)はノーベル賞週間行事に合わせて開催される「ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)」に参加する学生を選考の結果、慶応義塾大学 医学部の伊津野 舞佳さんと東京工業大学 理学部 地球惑星科学科の土山 絢子さんに決定しました。今年のSIYSSの派遣期間は12月4日(火)出発～12日(水)帰国となります。



(左:慶応義塾大学 伊津野 舞佳 さん
右:東京工業大学 土山 絢子 さん)

SIYSS(Stockholm International Youth Science Seminar)とは科学者をめざす若者を対象にした1週間にわたるセミナーであり、1976年にスウェーデン青年科学者連盟がノーベル財団の協力を得て開始して以来、毎年開催されています。セミナーでは、世界各国から集った若者が現地の高校生を前に英語で各自の研究発表を行います。また、スウェーデン最大の教育・研究機関でありノーベル医学・生理学賞の選考委員会が置かれているカロリンスカ研究所を始め、ストックホルムの大学や企業を訪問。さらに、ノーベル賞受賞者記念講演会を始め、祝賀レセプション、授賞式、晩餐会等一連のノーベル賞週間行事に参加してノーベル賞受賞者と直接交流する貴重な機会が与えられます。

昨年は世界20カ国、のべ25名の学生が参加しました。「Japan Prize(日本国際賞)」で知られる国際科学技術財団は国内で唯一、SIYSSに参加する学生の募集と選考を日本国際賞の授賞領域である「物理、化学、工学」または「生命、農学、医学」領域を研究・専攻している18～24歳の日本国籍の学生を対象に行っており、毎年2名をストックホルムに派遣しています。1987年以降これまでに60名を派遣しました。

これまで参加した学生たちは、「SIYSSの1週間で、一生の糧となる刺激と一生忘れられない思い出を得た」、「科学者としての倫理観や日本について客観的に考えるきっかけになった」、「国境を超えた科学の普遍性を再認識した」、「ノーベル賞受賞者本人から直接聞いた『好奇心や探究心を決して忘れてはいけない』という言葉が印象に残った」等、感想を述べています。

また、毎年行われている参加学生が自ら本期間の体験を語る「SIYSS 報告会」は12月21日(金)の15時からを予定しています。※詳細については別途ご案内させていただきます。

本件に関するお問い合わせ先:

ジャパンプライズ広報事務局 高柳・岩坂・松葉

Tel:03-4570-3180 Fax:03-4580-9132 E-mail:pr-media@japanprize.jp



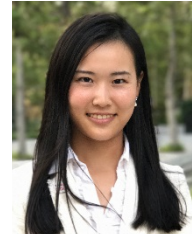
【参加学生 略歴】

伊津野 舞佳(いつの まいか)さん

2015年4月 慶應義塾大学 医学部 入学
2018年9月 慶應義塾大学 医学部 在学中

研究中のテーマ

認知症患者由来のiPS細胞を用いた病態の解明



土山 絢子(つちやま あやこ)さん

2015年4月 東京工業大学 第一類 入学
2018年9月 東京工業大学 理学部地球惑星科学科 在学中

研究中のテーマ

中部日本下で発生する深発地震の発生機構



国際科学技術財団とは

国際科学技術財団は、人類の平和と繁栄が世界中の人々にとって共通の願望であることに鑑み、これに貢献する科学技術の進歩のための研究開発活動を奨励すると共に、科学技術に関する知識及び思想の総合的な普及啓発を図ることを目的としています。科学技術の分野における権威ある国際的な賞として「Japan Prize」を創設するために、1982年11月1日に内閣総理大臣の許可を得て発足しました。

Japan Prizeの創設は、1981年、当時の鈴木内閣の中山太郎総理府総務長官が「国際社会への恩返しの意味で、日本にノーベル賞並みの世界的な賞を作っては」という構想をたてられ、これに松下幸之助氏が「畢生(ひっせい)の志」のもとに寄付をもって応え、実現したものです。

国際科学技術財団は、上記の目的を達成するために次の事業を行っています。

- (1) 科学技術において、独創的・飛躍的な成果を挙げ、その進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献する業績を成したと認められる人を Japan Prize(日本国際賞)をもって顕彰する事業
- (2) 科学技術に関する研究に対する助成及び奨励事業
- (3) 広報刊行物、研究論文集等の刊行物やセミナー開催などを通じての科学技術に関する知識及び思想の総合的な普及啓発活動
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

最新情報は公式 SNS アカウントでも随時更新しています。

: @JapanPrize / : @JapanPrizeAward / : @japanprize